



10年にわたる観察記録  
「鎌倉市の蝶」を上梓  
浅野 勝司 さん（岡本在住）

### ●蝶との出会い

小さなころから昆虫が好きだった。本格的に蝶の採集を始めたのは高校時代。昆虫好きが高じて入部した生物部でほかの部員と競うように採集や標本作りにのめり込んでいった。

「まず蝶がきれいだったということ。それに蝶というのは甲虫やトンボなどと違って大変繊細で標本にするのが難しいんです。とても傷みやすく、羽に触れるのはもちろんいけない。それをどう工夫して仕上げるかということにも夢中になりましたね。当時は道具類や標本箱なんかも高価でしたから、桐箱を使って手作りしたり。そしてやはりコレクターというんでしょうかね。昆虫採集というのは、それこそ周りの仲間たちと競争で、あそこでこれを採った、どこそこでこれを採ったと言ってね。」

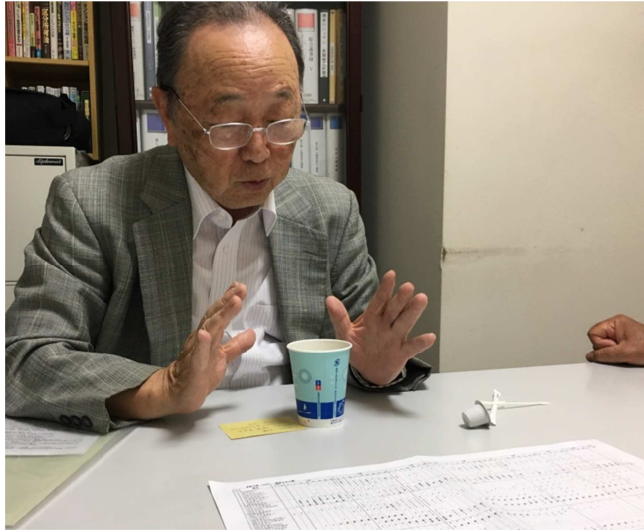
以来70年近く、蝶を追いかけてきた。進学した宇都宮大学では農学部で応用昆虫を専攻。研究に没頭するとともに地域の昆虫愛好会の事務局をつとめ、昆虫漬けの4年間を過ごした。日本が好景気を迎える直前、いまだ就職難の折から、新たに開設された全農の研究所に昆虫の専門家として迎えられることになったのも、それまでの実績があればこそだっただろう。その後長らく病害虫防除の技術指導に携わった。

「転勤等で全国各地へ赴く機会がありました。行く先でその土地の蝶を採集することもありましたし、退職後時間ができてからは国内外問わず出かけましたね。海外遠征はマレーシアやボルネオ、アメリカ…。」

そして日本中、世界中の蝶を見てきたが、ふと地元を目を向けると、緑が多く残るこの地でたくさんの蝶を見ることができた。

## ●鎌倉市の蝶

「わりと最近まで地元の蝶なんかね、興味なかったんです（笑）。でも鎌倉中央公園ができてしばらく経ったころでした。眺めていると結構いるんですよ。鎌倉市というのは緑が多く、台峰や広町緑地などは保存会の活動も盛んです。蝶の観察できるエリアも多い。これは面白いと記録を始めたのが最初ですね。」



それから10年にわたる活動の成果がこの5月に発行された「鎌倉市の蝶」だ。市内の鎌倉中央公園、台峰、広町緑地や大船フラワーセンターなどを中心に、蝶の発生状況を記録してきた。いつ、どこで何がどのくらい、というデータを自身で作成したグラフ等を用いて詳細に掲載した。

「いざ市内の蝶について調べようとしたとき、文献がほとんどなかったんです。断片的なものはいくつかありましたが。鎌倉市には独立した博物館

もありませんね。それでせっかく作るなら資料として正確な、きちんとしたものに仕上げたいと思ったんです。」

最初に作成したパンフレットを元に、約1年かけて内容を練り上げた。出来上がった「鎌倉市の蝶」は関係者に好評を博すとともに、その詳細なデータやわかりやすい解説、また市単位での観察記録というこれまでにない画期的な点が高く評価され、全国区の専門誌「ゆずりは」誌上でも取り上げられた。最近では同じように地域の蝶について本を作りたいと相談を受けることもある。

つづら  
ご。  
右)



## ●子どもたちへ

「鎌倉市の蝶」は教育委員会を通じて市内の小中学校に寄贈された。これまで学業や仕事の傍ら、子どもたちに昆虫について教える機会も多かった。

「昆虫採集というのも最近はあまり好まれない風潮というか、敬遠されることも多いです。近隣の愛好家の団体が講座を開いたりしているのですが、以前と比べるとなかなか子どもが集まらなかったりします。もちろん虫をやたらにとる必要はないですが、実際に見て触れて学ぶことがあります。この本が昆虫に触れる機会の少ない子どもたちに興味を持ってもらうきっかけになればうれしい。ミドリシジミという美しい蝶は、ハンノキを餌にしている生息場所が限られます。今はまだ普通に見られますが、里山がなくなっていく中、ハンノキが伐られればいなくなります。できるだけ守っていきいたいし、皆さんにも興味を持ってもらえたら。」

## ●尽きない思い

最近標本箱の収納ができるように押入れを改造した。現在手元にあるのは80箱ほど。採集を始めたころの標本は今はもうない。

「初めは菓子箱を使ったりしていましたが。昆虫の標本は湿気と虫食いが大敵なんです。やはり一年ほどでだめになってしまいました。あとは大学に寄贈したものが残ってるかどうか…。自宅に保管しているものも特に価値のあるものというより個人的な思いですね。わたしにとっては大事なもののばかりです。地元の観察を始めてからはあまり収集や標本作りはしていません。専ら記録と撮影。」

鎌倉市の蝶を観察すると決めてからの10年間、晴れた日に約束があると気が気ではなかった。蝶の観察は天候に左右される。どちらに行くべきかじりじりすることも多かった。ようやくそれも一区切りがつき、ほっとしているところだという。

「最近腰痛もあってなかなか遠方へ出向くことも難しくなりましたが、蝶と出会う人生を楽しんでいきたいです。例えばコムラサキ。この辺りにはいなかったのが中央公園で見られるようになったので定期的に観察したい。それからクロヒカゲという蝶の目撃情報が玉縄近辺であるのですが、相鉄線以南では見られないのが定説になっていて、もし本当に見つかればかなりの発見です。ぜひこの目で確認してみたいですね。」

浅野勝司（あさのしょうじ）さん  
1937年生まれ。宇都宮市出身。

ホームページ「鎌倉市の蝶」で追加情報や蝶に関するブログなどを発信している。

<http://kamakurachyo.com/>

「鎌倉市の蝶」をお求めの方は浅野さんまで。  
[asachou@xg7.so-net.ne.jp](mailto:asachou@xg7.so-net.ne.jp)

